

2024年問題に対応した サステナビリティな物流を目指して

西濃運輸株式会社

執行役員運行部部長 吉田 明宏

西濃運輸株式会社 会社紹介

設立

昭和21年 11月1日

事業内容

貨物自動車運送事業、貨物運送取扱事業、倉庫業、航空運送代理店業、
通関業、国際航空貨物混載運送取扱業 他

本社

【大垣本社】 岐阜県大垣市田口町 1 番地

【東京本社】 東京都中央区日本橋浜町1-12-9 日本橋浜町ビル6F

売上高

西濃運輸 : 3,137億4,400万円 (単体)

セイノーHD : 7,373億7,700万円 (連結)

従業員数

単体 : 16,585人

グループ(102社)合計 : 約31,400人

2025年3月現在



2024年問題とは

2024年問題への対応

●時間外労働時間の規制強化

1. 年間960時間までの上限規制

●改善基準告示の改訂（労働時間短縮）

1. 一日の最大拘束時間

16時間 ⇒ 15時間

2. 休息时间

8時間 ⇒ 9時間

⇒長距離トラック輸送の維持が困難となる

2024年問題に対する取組み 拘束時間削減、運び方の革新

背景

●中長期的な労働力不足への対応

(長距離便をトラックでは維持できない)

⇒長距離運行(宿泊あり)から日帰り運行の転換

- ・モーダルシフトの推進

⇒拠点間輸送のダイヤグラム化実施による作業全体の効率化

- ・お客様とWin-Winな時間短縮政策の実現

(パレタイズ、方面別出荷、倉庫活用など)

- ・出勤時間・出発時間の運行便ごとの設定

モーダルシフトについて

●長距離輸送ネットワークの安定化に向けた大型モーダルシフト推進 トラック⇒鉄道

従来運行



名古屋支店



鳥栖支店



交代乗務員

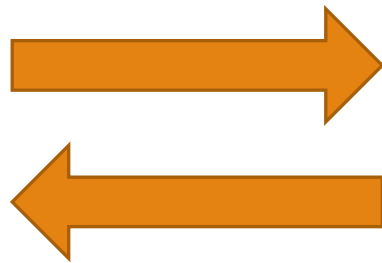
サステナビリティ物流に向けた モーダルシフト【働き方改革】

●長距離輸送ネットワークの安定化に向けた大型モーダルシフト推進 トラック⇒鉄道

モーダルシフト実施後



名古屋支店



名古屋貨物ターミナル駅



福岡貨物ターミナル駅



鳥栖支店



サステナビリティ物流に向けた モーダルシフト 【働き方改革】

●ブロックトレインとは

●ブロックトレインは

- ・西濃運輸のコンテナが隙間なく並んでいる
(20両中15両が西濃運輸)
- ・全て西濃運輸所有の31FTコンテナを使用できる
(現在キティちゃんコンテナを2基運用中)
- ・作業時間・列車時間については、西濃運輸専用にカスタマイズされている。



サステナビリティ物流に向けた モーダルシフト【働き方改革】

●長距離輸送ネットワークの安定化に向けた大型モーダルシフト推進

ブロックトレイン導入後



サステナビリティ物流に向けた モーダルシフト 【働き方改革】

通常トラック



ブロックトレイン専用:31FTコンテナ車両



サステナビリティ物流に向けた モーダルシフト 【働き方改革】

キティちゃんコンテナ



Hello Kitty
© '23 SANRIO CO.,LTD. APPR.NO.L640404

サステナビリティ物流に向けた モーダルシフト 【働き方改革】

ブロケットレイン(専用列車)導入実績

①カンガルーライナーSS60号 2018年5月運行開始

吹田貨物ターミナル駅 ⇔ 郡山貨物ターミナル駅・仙台港駅

走行距離:928km

②カンガルーライナーNF64号 2021年3月運行開始

名古屋貨物ターミナル駅・岐阜貨物ターミナル駅 ⇔ 北九州貨物ターミナル駅・福岡貨物ターミナル駅

走行距離:826km

③カンガルーライナーTF60号 2021年10月運行開始

東京貨物ターミナル駅 ⇔ 姫路貨物駅・東福山駅

走行距離:779km

※2025年度14台増便

サステナビリティ物流に向けた ブロックトレイン運行について

●長距離輸送ネットワークの安定化に向けた大型モーダルシフト推進

①少子化問題から将来的なドライバーの確保

- 東北⇄関西、中部⇄九州、山陽⇄関東といった600 k mを大幅に超える距離についてはセミ・トレーラの二人乗務運行を実施しており、牽引免許資格、二人乗務運行といった観点から労働力の維持・継続に課題

②長距離運行におけるコンプライアンス遵守

- 800 k mを超える運行であったため、一人乗務運行でのコンプライアンス遵守は難しい
- 二人乗務運行であっても、1000 k mを超える運行もあり、時間管理ではぎりぎりであった。

③CSR活動（CO2排出量削減）

- モーダルシフトによるCO2排出量削減効果は認められており、継続的に実施する必要がある



幹線のダイヤグラム化 定時運行の確立

●幹線のダイヤグラム化とは

西濃運輸は1日4,700便のトラック便が運行している
運行便1便ごとの出勤時間と出発時間を定めることでコンプライアンス遵守を実現する

- 2018年4月より幹線のダイヤグラム化への取組みを実施し（出発時間のみ設定）
- 2023年4月より出勤時間・出発時間を設定し、取組みをブラッシュアップ
⇒2024年問題への対応として出勤時間も設定する必要があるため

2026年5月現在、幹線のダイヤグラム化による日々の実績把握並びに改善は進行中

幹線のダイヤグラム化 定時運行の確立

●幹線のダイヤグラム化とは（改善に向けた具体例）

○モーダルシフト

長距離運行（600 km以上）のモーダルシフト（鉄道・船舶）の活用
例） ブロケットレイン

○中継輸送

運行便の立寄り店舗数の削減

例） 改善前 岐阜支店⇒深川支店・東京支店・市川支店

改善後 岐阜支店⇒東京支店・市川支店

※東京支店で深川支店宛の貨物を中継し、積載効率は下げずに時間短縮

モーダルシフト: ブロケットレイン

ブロケットレイン(専用列車)導入実績

①カンガルーライナーSS60号 2018年5月運行開始
吹田貨物ターミナル駅 ⇔ 仙台港駅
走行距離: 928km

②カンガルーライナーNF64号 2021年3月運行開始
名古屋貨物ターミナル駅 ⇔ 福岡貨物ターミナル駅
走行距離: 826km

③カンガルーライナーTF60号 2021年10月運行開始
東京貨物ターミナル駅 ⇔ 東福山駅
走行距離: 779km ※2025年度14台増便

CO2排出削減量

- ①カンガルーライナーSS60号: 8,756 t/年
 - ②カンガルーライナーNF60号: 9,095 t/年
 - ③カンガルーライナーTF60号: 9,969 t/年
- ※2025年度増分: 1,947t/年

合計: **27,820t/年** (乗用車2.2億km走行相当)



サステナビリティ物流に向けた ZERO EMISSIONへの取り組み

FCEV(水素燃料電池)大型車両実証実験開始

2023年6月28日(水)から実証実験開始
東京支店～小田原支店～相模原支店～東京支店
走行距離:207km

2026年5月現在 所有台数1台
福島県～東京都を走行中

2026年度については大型FCEV車両8台を新たに導入
※7月度から納車予定(東京都に配車)

CO2排出量“0”車両

CO2排出削減量

合計:47t/年 (乗用車34万km走行相当)



先進的な取組み ～ダブル連結車両～

ダブル連結(24m・25m)運行導入実績

小牧支店 ⇄ 藤枝支店 2018年3月運行開始
走行距離:180km

ヤマト運輸関西ゲートウェイ ⇄ 厚木ゲートウェイ
走行距離:513km ※4社共同運行

西広島支店 ⇄ 姫路支店 2021年10月運行開始
走行距離:252km

西広島支店 ⇄ 福山支店 2021年11月運行開始
走行距離:104km

西広島支店 ⇄ 神明支店 2022年5月運行開始
走行距離:312km

CO2排出削減量

合計: **623t/年** (乗用車450万km走行相当)



先進的な取組み ～自動運転車両～

自動運転車両の商用運行開始

株式会社T2
日本郵便株式会社
JPロジスティクス株式会社

4社にて自動運転車両の共同運行による商用運行開始

現在は自動運転LV2(有人)にて実施しており
神奈川県～大阪府まで高速道路上の自動運転を実施



2027年度自動運転LV4(高速道路での無人運行)に向けて
株式会社T2と共同で技術の確立、法令整備など実現に向けた活動を推進中

ご清聴ありがとうございました